

看護大学 だより #22

新しい学び・人・キャンパス
福岡看護大学の魅力をご紹介します！



行政保健師としての あるべき姿を探して

福岡看護大学2期生

野上舞

私は福岡看護大学を令和3年度に卒業後、苅田町役場で行政保健師として勤務しています。苅田町の保健師は本庁(成人保健と総合保健福祉センター(母子保健))に分かれて配属されており、私は現在、本庁の子育て・健康課で公務にあたっています。

今年7月には、福岡看護大学の保健師養成課程の学生3名が実習に来てくれました。各事業担当者に質問するのを躊躇っている姿は、昨年の実習時の自分を見ているようでした。住民に対して何かしらの介入を行う際、1つの課で解決できることはあまり多くありません。そのため、行政の場において他課との連携は重要となります。また住民・家族のみならず様々な職種・領域の人々(他者)との連携を図るスキルは必須です。短期間で他者と良好な関係を築くことができるよう、質問や会話をしていくことの重要性について、後輩たちへの実習指導を通して改めて実感することができました。

保健師は、住民全体の健康増進を図ることを目的としているため、個人に関わることができる時間は限られ、一朝一夕で結果が出る業務もほとんどありません。しかし、住民の方々に一番近くで支え、一次予防にも貢献できる唯一の専門職だと考えます。『住み慣れた地域で最期まで』を叶えることのできる保健師こそ私の目指す姿です。

最後に、現在、国が目標としている健康寿命の延伸に保健師の存在は欠かせないものであると、日々の業務を行っていく中で強く感じています。福岡看護大学で学んだwell-beingを地域社会という大きな枠組みの中で、どのように活かしていけば良いのか、どのようにすれば活かすことができるのかを考えながら、今後の公務に勤しんで参ります。



短大 VOICES #22

夢を叶える場所
「福岡医療短期大学」
多くの出会い・絆を育てている
短大の情報をお届け！



福岡医療短期大学

(17期生)
杉本清楓

歯科衛生士のキャリアアップを目指して！ 〔日本顎顔面補綴学会認定歯科衛生士〕

福岡医療短期大学 歯科衛生学科を卒業後、専攻科へ進学し、臨床実習で初めて見た顎義歯に驚きと興味を持ち、補綴科を専攻しました。現在は福岡歯科大学 医科歯科総合病院の病棟専任の歯科衛生士として勤務し、より深く顎補綴治療に携わりたいと思い、日本顎顔面補綴学会の認定歯科衛生士を取得しました。

顎補綴装置を使用している患者さんの多くが口腔癌の術後であり、鼻腔と交通するような瘻孔が生じていたり、頬粘膜の拘縮が強かったりと口腔内の状態は様々で、食事や会話に大きく影響するため、患者さん個人に合わせたケアが行えるように日々努めています。また、病院2階の口腔外科外来だけではなく、5階の病棟専任として、毎日2階と5階を行ったり来たりしながら、医科入院患者さんの口腔衛生管理も行っています。様々な疾患を持った患者さんが入院しているため、悩むことも多くありますが、QOLの維持や向上を図り、入院期間を少しでも快適に過ごしていただけるよう尽力していきたいと考えています。

